

**阪大病院 NEWS**

No. **99** 号

THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL

2025(令和7)年7月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)  
住所/〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15  
TEL / 06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

**7/14から マスク着用ルールの変更**

病院内でのマスク着用は個人の判断となりました  
(感染症流行時等を除く)

### アイソトープ治療センター

#### 5/1 放射線治療の専用病室

#### 退出基準を満たすまで適切に管理

本院では2025年5月1日、「アイソトープ治療センター」を開設しました。放射性医薬品(RI:Radio Isotope)を使用し、体内から病変に放射線を照射する先進的な治療を行うセンターです。この治療は、放射線防護の観点から、一定期間、専用病室での入院が必要です。本院では東3階病棟に4室のRI治療専用病室を整備し、安全性を確保した治療環境を提供しています。治療対象疾患には、甲状腺がん、神経内分泌腫瘍や褐色細胞腫などがあり、すでに以下の治療が保険診療で受けられます。

- ・ 神経内分泌腫瘍(Lu-177 DOTATATE) (商品名:ルタテラ)
  - ・ 褐色細胞腫(I-131 MIBG) (商品名:ライアット)
  - ・ 甲状腺がん(I-131) (商品名:ヨウ化ナトリウム(I-131)カプセル)
  - ・ 去勢抵抗性前立腺がんの骨転移(Ra-223) (商品名:ゾノフィオン)
- 【外来治療】
- ・ バセドウ病(I-131) (商品名:ヨウ化ナトリウム(I-131)カプセル)
  - ・ 去勢抵抗性前立腺がんの骨転移(Ra-223) (商品名:ゾノフィオン)

## 先進・総合的医療連携へ新たな拠点

### リウマチセンター

#### 5/7 免疫内科と整形外科

#### 一体運用で利便性向上

本院では2025年5月7日、統合診療棟にリウマチセンターが発足しました。関節リウマチは、免疫系の異常により関節内に炎症が起きて腫れや痛みを伴い、進行すると関節の軟骨や骨が破壊され、変形から機能障害に至る病気です。リウマチセンターは、免疫内科と整形外科が連携し、垣根のない高度な医療を提供する新たな協働態勢で患者さんを包括的に診療し、利便性と医療水準の向上を目指します。



2024年に診療した関節リウマチの患者数は、免疫内科で842人、整形外科は723人です。整形外科の昨年の手術件数727件のうち、リウマチ患者に対しては59件です。日本リウマチ学会認定のリウマチ専門医は免疫内科24人、整形外科5人が在籍し、リウマチセンターでは両科が連携して患者さんに対応します。外来患者さんは、まず紹介された各診療科での初期診察を受けた後、リウマチセンターでの診療が適していると判断された場合、統合診療棟1階の専門診察室にスムーズに案内されます。

関節リウマチは早期発見と適切なタイミングでの治療開始が重要です。薬物治療は抗リウマチ薬であるメトトレキサート製剤、生物学的製剤、JAK阻害薬などによる加療を行います。代表的な生物学的製剤の中には、物理的製剤の中には大阪大学免疫内科が中心となって開発・導入された、関節の炎症反応を抑える分子標的薬「アクテムラ」があります。また、免疫内科では高解像度の関節エコーによる診断補助や経過観察が可能で、整形外科では装具療法や手術療法を行います。

**病院再開発基金へのご寄附のお願い**

再開発事業の第1弾として今年の5月に統合診療棟が開院となりました。統合診療棟は、外来、中央診療および一部病棟機能を備え、診療機能の向上と災害拠点病院としての役割強化を実現しています。第2弾では、外来棟跡地に新病棟を建設予定で、統合診療棟と既存病棟をつなぐ接続バスの整備も計画されています。

1993年の全面移転以降、病棟は構造的限界から時代のニーズに適応できなくなっています。統合診療棟整備での治療機能強化に続き、患者さんの快適な療養環境整備が求められています。

再開発のコンセプトは、「Futurability待ち遠くなる未来へ。」です。今後の再開発事業にご支援を賜りますようお願いいたします。

**大阪大学 未来基金**

詳しくはこちらをご覧ください

**患者支援アプリ「ウェルコネ」で 外来通院がより便利に、より快適に!**

あとどのくらいで診察呼ばれるの? 前もらった薬なんだっけ? 診察日を前日にもお知らせしてほしい 会計並ばずに早く帰りたい

アプリを利用した新しい受診の流れをご紹介します。

※通信にかかる費用は利用者の負担となります

大阪大学医学部附属病院が採用している患者支援アプリwellcneは、2025年5月の統合診療棟オープンに合わせて既存の機能がUPし、新しい機能が追加されました!

**1 診察受付(デジタルチェックイン)**  
院内の様々な場所に設置されたQRコードをアプリで読み込むことで受付が行え、当日の診察の情報がアプリでご確認いただけます。※朝7時から診察受付を行っていただけます。

**2 アプリ決済(後払い会計)**  
料金計算窓口に並んでいただく必要がなくなりました。アプリにクレジットカード情報を登録いただいている患者さんは、「アプリ決済(後払い)」をクリックいただければ、直ぐに帰宅していただけます。※医療証等をお持ちの患者さんは、ご利用いただけない場合がございます。

**3 診察待順案内**  
診察の順番が近くなると、スマートフォンに通知が届く機能が眼科、神経科・精神科、麻酔科でもご利用いただけるようになりました。

**4 処方箋情報送信**  
処方箋を写真撮影することなくスマートフォンから薬局へ送信いただけます。

**5 呼び出し専用機**  
アイセンター(眼科)では、スマートフォンをお持ちでない患者さんにwellcne-lightによる呼び出し用の専用機器を貸し出しています。音と振動でお知らせしますので、診察室から離れた場所で順番をお待ちいただけます。

患者支援アプリwellcne(ウェルコネ)は、ご自宅でも登録いただけます。統合診療棟の1階と2階のエレベーター前にサポートブースを設置しております。登録方法が不明な場合、サポートブースにお立ち寄りいただき、ご登録をお願いいたします。

**ウェルコネアプリのインストールはこちら**

**新 診療科長等ごあいさつ**

**山本 浩一**  
●内科系科長

このたび内科系科長を拝命いたしました。老年・総合内科学科長の山本でございます。大阪大学の内科系診療科はこれまで一丸となり、診療・研究の向上および諸課題の解決に努めてまいりました。この結束力は、他に類を見ないものと感じております。この伝統を守るべく尽力いたしますので、皆様のご支援、ご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。  
(令和7年5月1日就任)

**小川 和彦**  
●アイソトープ治療センター長

アイソトープ治療とは、放射性医薬品(アイソトープ)を使用し、体内から病変に放射線を照射する先進的な治療です。治療対象疾患には、甲状腺がん、神経内分泌腫瘍や褐色細胞腫などがあります。当センターでは、糖尿病・内分泌・代謝内科、核医学診療科や放射線治療科を中心とした専門的なチーム医療体制により、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供しております。今後は、小児神経芽腫や、前立腺がん治療の保険収載も期待されており、診療体制のさらなる充実を図っていく予定です。  
(令和7年5月1日就任)

**西田 幸二**  
●アイセンター長

このたび大阪大学医学部附属病院アイセンター長を拝命いたしました。医師と看護師、コメディカルが一体となり、診療・手術・臨床研究に取り組みます。外来から入院、手術、さらにリハビリまでを同一フロアに集約することで、ハイオリティ・ハイボリュームのアイセンターを目指します。今後も先進的かつ温かみのある医療を提供できるよう尽力してまいります。  
(令和7年5月7日就任)

**岡田 誠司**  
●リウマチセンター長

本年5月から本院にリウマチセンターが設立されました。関節リウマチは薬物治療が中心となりますが、進行して関節破壊が生じると手術が必要となることも多々あります。本センターでは、リウマチ内科とリウマチ外科、さらには専門的知識を有した看護師、理学療法士、装具技師などの他職種を含めたトータルマネジメントによって、リウマチ患者さんにより良い治療を提供することを目指します。  
(令和7年5月7日就任)

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS



小児医療センター 春の遠足

子どもたちは、ご家族・入院仲間・医療スタッフと一緒に、桜が満開、春爛漫のお庭で、シャボン玉やパラシュート、フリスビーや輪投げ、四つ葉のクローバー探しなど、屋外でのひとときを楽しみました。

ツボ講座を定期的で開催しています



がん相談室では定期的に、東洋医学に基づいて体調を整えることを目的とした「ツボ講座」を開催しています。東洋医学の基礎知識だけでなく、おススメのツボ(経絡)の紹介なども行っていますので、ぜひお気軽にご参加ください。

特定行為研修第6期生の研修が始まりました



特定行為とは、医師が実施している医行為の一部を看護師が行うものです。人工呼吸器の操作、薬剤の調整、動脈血の採血、傷の処置などがあります。研修では医行為を安全、確実に実施するための、理論や実技を学びます。研修を開始し6年目となる今年度は、院内外22名の研修生を迎え地域医療に貢献しています。

PUSH講習会(第100回)



本院では医療従事者以外の職員を対象に、院内急変対応やAED使用法の習得に特化した「阪大病院PUSH講習会」を開催しています。第100回となる今回は病院長からの開会挨拶が始まり、参加者は積極的に取り組みました。

手指衛生遵守率表彰



手指衛生は感染対策の基本となります。2024年度手指衛生遵守率の高かった3病棟を病院長、看護部長、感染制御部長で表彰し、部署スタッフにバッジを授与しました。第1位NICUは昨年に続き1位でした。



免疫内科

増える免疫疾患 国内最大規模の診療体制で対応 若手の女性医師も活躍

免疫内科が診療する疾患は、本来は自分の体を守る免疫の仕組みに異常が生じて起こる病気です。アレルギー性疾患、

免疫不全症、自己免疫疾患(リウマチ・膠原病)に加え免疫抑制状態にある患者さんに生じる感染症や、原因の分からない熱や炎症、関節痛の原因精査など幅広く診療しています。当科では地域の病院と連携して積極的に患者さんのご紹介や転院を受け入れる体制を構築し、年間約3000人の外来患者さんを診療しています。関節リウマチが最多で、約3割弱を占めています。入院患者さんの数も年々増加しており、2024年の入院患者数は383人と過去最多を大幅に更新しました。ここ5年間で約1.5倍になっており、国内有数規模の診療施設になっています。なかなか診断がつかずお困りの患者さんについても専門的知識を動員してしっかり検査

し、適切な診断・治療を提供します。免疫疾患の治療薬は昔はステロイドが主でしたが、今は様々な免疫抑制剤を使い分けることが必要です。CAR-T療法など先進的治療の治療も始まっており、多くの免疫疾患をコントロールできる時代になっていきます。免疫内科には大学院生を含めて医師37人が在籍しています。特に若手女性医師の活躍がめざましく、出産や育児などのライフイベントを尊重し、時短で働く医師もいます。自己免疫疾患は若い女性に発症することも多く、女性医師の活躍の場が多い科といえます。また、当科では免疫学の基礎研究や、臨床検体を用いた研究にも取り組んでいます。大阪大学内の研究機関である免疫学フロンティア研究センター・微生物病研究所・大阪大学感染症総合教育研究拠点・大阪大学ワクチン開発拠点にも多くの医師、研究者を派遣し「オール阪大」での難治性疾患の解明や治療法開発に貢献しています。

てんかんセンター

てんかんは脳の慢性疾患で、脳神経の活動異常により発作が繰り返し起こります。有病率は0.7%程度で100万人の患者がいると推定され、珍しい病気ではありませぬ。小児期を中心に年齢に関係なく発症し、最近では高齢者の発症も増えていきます。意識を失ったり、ぼんやりして返事をしなくな

ったりと発作の症状はさまざまです。高齢者の場合、認知症との区別が難しく、周りが病気に気がつきにくいケースもあるため、その見極めが課題となっています。症状の多くは抗てんかん薬で抑えられます。外科手術も進歩し、発作を起こす脳の部位を切り取る焦点切除術のほか、最近では発作の頻度を抑えるため機械を体内に埋め込んで電気を流す迷走神経刺激療法もできる

ようになりました。2012年に設置されたてんかんセンターは、小児科、脳神経内科、脳神経外科、神経科・精神科が連携して診療に当たっています。本院は厚生労働省の「てんかん地域診療連携体制整備事業」に基づき、19年から大阪府唯一のてんかん支援拠点病院に指定されています。てんかん専門医8人を擁し、年間の手術は約50件、発作時を含む長時間の撮影と脳波検査が約400件、通常の脳波検査は約2000件を数えます。

大阪府唯一の てんかん支援拠点病院 教員向けの対応ビデオ作成へ



たてんかんの学校生活、例えばプールや修学旅行の際の対応などを医師が15分ほどで説明する内容です。また、府内の診療施設を登録した「てんかんマップ」をインターネットで公開しているほか、医療者と患者をつなぐ診療コーディネーターの連絡網を整備し、患者さんと情報交換できるような仕組みも設けています。

たてんかんの学校生活、例えばプールや修学旅行の際の対応などを医師が15分ほどで説明する内容です。また、府内の診療施設を登録した「てんかんマップ」をインターネットで公開しているほか、医療者と患者をつなぐ診療コーディネーターの連絡網を整備し、患者さんと情報交換できるような仕組みも設けています。

阪大病院を見学しませんか



本院では、以下のとおり見学会を開催いたします。普段は見ることのできない場所の見学や最先端の医療に触れるチャンスですので、お気軽にお申し込みください。

- 実施日時 10月24日(金)13時30分~16時10分
●申込締切 9月10日(水) 締切厳守
●対象者 一般市民(成人、個人)
●募集人員 15人(応募者より抽選のうえ)
●申込方法 QRコードまたは下記URLからお申し込み下さい。



https://forms.office.com/r/PhD4qUDWyc

メール、ハガキ、お電話でのお申し込みはできませんのでご了承ください。

(いただいた個人情報は本見学会以外の目的には使用いたしません)

●決定通知 当選者にはメールでお知らせします。

★注意事項★

- ・見学では、かなりの距離を歩きます。
・今後の感染症等状況により開催中止になることがあります。
・当日受付時に検温および体調に関する確認を実施いたします。
その結果、ご参加いただけないことがありますのでご了承の上お申し込みください。

問い合わせ先

大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係
E-mail: ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

岩崎朋之看護部長

おすすめ御膳



メニュー一例

- ・季節の天麩羅
・おろし和え
・清汁
・とうもろこし御飯
・ずんだ餅
・小児食デザート
パンダパイ

6月24日に岩崎朋之看護部長おすすめ御膳を実施しました。「好評の天麩羅と夏らしい食材を楽しんでもらいたい」というコンセプトをもとに、天麩羅には旬のキス、アスパラ、ミニトマト等を取り入れ、とうもろこし御飯を添えて彩り鮮やかなメニューに仕上げました。小児食には、パンダをモチーフにした可愛いデザートを手作りしました。患者さんからは「懐石料理と言われてもおかしくないレベルの食事でしたね」「ごちそうが出てきたからすごく元気になった」「夏らしい食事、とても気分がよかったです」など、嬉しい感想をいただきました。